

教科	国語	単位数	2単位
科目	現代文B	学年・クラス	第2学年・普通科

1. 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>1 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝えあう力を高める。</p> <p>2 思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨く。</p> <p>3 言語文化に対する関心を深め、現代の文章を読み、読書に親しむ態度を身に付ける。</p>
使用教科書・副教材等	新編現代文B（東京書籍）新編現代文B学習課題ノート

2. 学習計画および評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい	課題・提出物等	考査
第1学期	4	1 随想 こそそめス ープ	<ul style="list-style-type: none"> 随想を読んで、筆者の考え方や感じ方を的確に読み取る。 個性的な表現を味わい、随想の魅力を知る。 	ノート 授業で使用するワ ークシートやプリ ント	一 学 期 中 間 考 査
	5	2 小説1 ナイン	<ul style="list-style-type: none"> この小説の場面展開を的確に読み取ると同時に、冒頭と最後の情景の関係を理解する。 小説における比喩的な表現の工夫を理解する。 小説に込められた作者の思いを理解する。 	ノート 授業で使用するワ ークシートやプリ ント 小説の感想	
	6	3 評論1 「ふしぎ」と いうこと (意見文の 書き方)	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を考えて、筆者の考えの論拠となる部分を読み取り、言外に示された筆者の主張を理解する。 「物語」「神話」と「自然科学」の方法の違いについて理解させる。 目的や課題に応じてさまざまな情報を収集し活用する方法を習得するとともに、それをすすんで表現する態度を養う。 意見文の書き方を習得する。 	ノート 授業で使用するワ ークシートやプリ ント	一 学 期 末 考 査
7	4 詩歌 「一つのメ ルヘン」「I was born」 「ぶうぶう 紙を…」	<ul style="list-style-type: none"> 作品に込められた作者の心情を読み取り、鑑賞力を高める。 詩の多様な表現を味わい何度も朗読をすることで、感情に訴えかける韻律、擬態語の活用、その文語性などを耳を通して味わう。 	ノート 授業で使用するワ ークシートやプリ ント 夏休みの課題読書 感想文		

第 2 学 期	9	5 評論 2 思考の肺活量	・ 比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。	ノート・授業で使用するワークシートやプリント	二 学 期 中 間 考 査
	10	安心について	・ シュルツの少年時代の思い出とチャーリー・ブラウンの発言との関係を理解する。 ・ 「安心」についてのシュルツの考えと筆者の考えを理解する。	ノート 授業で使用するワークシートやプリント	
	11	6 小説 2 山椒魚	・ 主人公の山椒魚が置かれた状況を理解すると同時に、場面展開を理解する。 ・ 山椒魚の心理変化を、順を追ってまとめて理解する。	ノート・授業で使用するワークシートやプリント 小説の感想文	
	12	8 読書と人生 塩一トンの読書	・ 古典との付き合いと人間どうしの関係の共通点と相違点を理解する。 ・ 筆者の読書に対する考えをもとに、読書に関する自分の考えをまとめる。	ノート 授業で使用するワークシートやプリント	
第 3 学 期	1	楽に働くこと、楽しく働くこと	・ 働くことにおける意識の持ち方の違いを理解する。 ・ 筆者の労働に関する考えを理解する。	ノート 授業で使用するワークシートやプリント	三 学 期 学 年 末 考 査
	2	7 小説 3 こころ	・ 小説の読み方に習熟する。 ・ 人物の心情の推移を適確に読み取り、優れた表現や描写を味わう。 ・ 小説を読む意義を考え、読みを通じて人生に対する認識を深める。	ノート 授業で使用するワークシートやプリント 小説の感想文	

評価の方法

- 1 中間考査や期末考査・実力テストの成績、教材ごとの授業の課題プリント、それぞれの作品の感想文、その他の提出物、授業中の発表の仕方や態度、学習活動への参加の姿勢や態度を総合して100点満点で評価します。
- 2 評価の内訳は、中間考査と期末考査の成績が70%程度、ノート・提出物・学習態度が30%程度です。

学習方法

- 1 国語の学習は、あらゆる学習を通して様々な形態の学習を行い到達目標を達成します。教科担任の指示や指導などをよく聞いて、積極的にかつ意欲的に授業に参加すること。
- 2 新しい教材に入る前に、読みの練習・漢字の学習・語句の意味調べ等の予習をしておくこと。
- 3 毎時間、国語便覧・国語辞典を必ず用意すること。
- 4 国語の理解力や表現力を高めるためには、読書に親しみ、文章を書く機会を多くもつこと。